



真名子小だより 9月号

えがお



平成25年9月17日
発行者 島田 芳行



記録的な猛暑が続いた長い夏休みも終わり、いよいよ2学期がスタートしました。子どもたちが元気に登校する道々の田んぼでは稲刈りが始まり、ヒマワリがきれいだった校舎前の花壇にもコスモスの苗が植えられました。少しずつですが確実に秋を感じる季節になってきました。

こうした中、2020年のオリンピック開催国が日本に決まり、日本中が喜びに沸きました。オリンピック招致団のチームワークの良さ、プレゼンテーションのすばらしさはもとより、私が最も印象に残ったのは、フェンシング太田選手の涙ながらの「子どもたちに次のステージが用意できて幸せです。」という言葉でした。この言葉を聞いたとき、私は「次世代で活躍する子どもたちをしっかりと育てねば」と教育の果たすべき責任を強く感じました。

2学期の授業日は78日で、1年の中で一番長い学期です。それぞれの学年にふさわしい学力、優しく強い心、体力をしっかりと身に付ける時です。各教科等の学習やふるさと交流会、学習発表会、持久走大会等の大きな行事を通して、実り多い2学期にしていきたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、今学期もどうぞよろしくお祈りします。

2学期の始業式で子どもたちに話したこと —没後100年、田中正造の生き方に学ぶ—



さて、2学期のスタートにあたり、今日は「田中正造」のお話をします。田中正造は、1841年、現在の佐野市小中町に生まれ、明治から大正時代にかけて活躍した人です。その頃の日本は、進んでいるヨーロッパやアメリカの文化に追いつこうと、国を豊かにするために、工業に力を入れ、強い国にしようとしていました。特に足尾で取れる銅は、外国に売るとお金になりましたので、どんどん生産しました。ところが、銅をつくる時に毒の混じったゴミが出ます。これを鉱毒といいますが、この毒で渡良瀬川の下流に住む人たちが、洪水のたびにとても苦しみました。魚が捕れなくなり、作物が枯れてしまいました。これを足尾鉱毒事件と言います。この鉱毒事件に立ち向かい、苦しみのどん底にいた農民たちを救おうとしたのが田中正造でした。

田中正造は、「足尾銅山の仕事をやめさせるためにはどうしたらよいか」「渡良瀬川の洪水をなくするためにはどうしたらよいか」などについて、よく調べ、よく考え、そして農民の気持ちや渡良瀬川の様子を国にどんどん伝えました。ついには命を捨てる覚悟で明治天皇に直接訴えようとなりました。こうした願いが通じて、国は洪水や公害対策などのために渡瀬遊水地をつくりますが、その土地にもともと住んでいた谷中村の人々がそこを追われることになりました。正蔵は、ご先祖様の土地から離れたくないと思う谷中村の人々に共感し、自らも谷中村に移り住み、命尽きるまで農民たちとともに闘い続けました。

渡良瀬川がきれいな川に戻り、自然豊かな渡瀬遊水地が今に残されてきた理由の一つに、こうした田中正蔵の活躍がありました。この田中正造の亡くなった日が1913年9月4日ですが、明後日でちょうど100年になります。田中正造のすばらしいところはいろいろありますが、その生き方ですばらしいなと思ったところを3つあげます。

- 一つ目は、足尾鉱毒と洪水の解決のため、よく調べ、よく考え、そのことを相手によく分かるように言葉で伝えようと努力しました。決して暴力に頼りませんでした。
- 二つ目は、弱者を助け、正しいと思うことを貫き通しました。
- 三つ目は、先祖が代々受け継いできた自然や歴史、すなわちふるさとを大切にしました。

田中正造の生き方に学び、夢や希望に向かって学び続ける学校、いじめのない日本一仲良し学校、日本一美しい学校を目指し、今学期も頑張っていきたいと思います。



平成26年度小規模特認校の入学募集をスタート！

小規模特認校とは、通常の通学区域にかかわらず栃木市全域どこからでも通うことができる制度です。本校は、平成26年度からこの制度を取り入れ、本校のよさを理解していただいた子どもたちの就学を受け入れます。本校の活性化のため、積極的にこの制度を活用したいと思いますので、ご理解ご支援、更にはPR等よろしくお願ひします。

【小さな学校だからできる本校のよさ】

【きめ細かな指導で学力アップ】



【優しい上級生、真名子小はみんな友達】



【四季折々の自然体験が一杯】



◇ 本物から学び、豊かな感性を磨く教育（一流の講師から直接学び、子どもたちの夢を育みます）



【水墨画を学ぶ】



【オカリナを学ぶ】



【民話を学ぶ】

※ 9月7日（土）に市役所で小規模特認校の説明会を行いました。パンフレットも用意しました。10月12日（土）、11月9日（土）はオープンスクール（学校開放日）です。興味ある方は、ぜひおいでいただきたいと思ひます。

2学期もお世話になります「とちぎ未来アシストネット」！

P.T.Aの皆様、地域の皆様のご協力・ご支援のお陰で、本校の教育が充実しています。夏休みのアシストネット・P.T.A合同の草刈り、9月初めのP.T.A奉仕作業、資源ゴミ回収。本当にお世話になり、ありがとうございました。2学期は、地域の学習やふるさと交流会、持久走大会等の行事等で、大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願ひします。



【農園やトンネル山の草刈り】



【図書室・保健室のペンキ塗り】



【P.T.A・ボランティア・子どもたち皆で頑張った資源ゴミ回収】

お知らせ

平成25年9月4日・5日に県内の校長を対象に「体罰の根絶を目指して」と「いじめ防止対策推進法」に関する研修会が行われました。栃木市では「あったか栃木」子ども生き生きプロジェクトを推進し、いじめ・体罰のない学校の実現を目指した独自の取組が行われています。「体罰」と「いじめ」は決してあってはならないものです。

本校でも皆様に信頼される学校を目指してこれらのことに全力で取り組んでまいります。なお、いじめの場合はまず担任が、体罰については教頭が相談窓口となりますので、どうぞお気軽にご相談ください。



【夏休みに実施した体罰の研修会】